（様式１）

視　察　報　告　書

平成２９年６月22日

鳥取市議会議長　下村　佳弘　様

鳥取市議会福祉保健委員会
委員長　西村　紳一郎　㊞

本委員会は、下記のとおり委員を派遣し、行政視察（調査）を実施したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

1　期　　間	平成２９年５月１６日から平成２９年５月１８日まで
2　派遣先及び視察（調査）内容	＜三重県名張市＞ ○地域福祉教育総合支援システムについて ・地域づくり組織 ・まちの保健室 ・名張版ネウボラ ・エリアディレクター ＜滋賀県近江八幡市＞ ○安寧のまちづくり基本構想について ・取り組みの経緯について ・主な取り組み内容について ・効果について ・今後の課題等について ＜奈良県奈良市＞ ○奈良市保健所・教育総合センター（はぐくみセンター）について ・はぐくみセンターの概要等について ・保健所設置の経緯について ・中核市移行に伴う課題について ・中核市移行に係る市民の評価について ・専門職の確保について ・複合施設であることのメリット・デメリットについて
3　派遣委員の氏名	西村紳一郎、田村　繁已、太田　縁、岩永安子、米村京子、吉野恭介、椋田昇一、房安　光
4　委員会所見	別添のとおり
5　参加者所見	別紙のとおり

別紙

所見

三重県 名張市	**○地域福祉教育総合支援システムについて** ・このたびの視察で「健康づくり　地域福祉活動の拠点」まちの保健室に注目し、地域密着型の活動内容を研修した。地域づくり組織 15 ケ所に設置され、情報も集まり、それぞれの「まちの保健室」のネットワークも構築でき、情報の共有、対応の機動性も発揮され、本当に良い仕組みと感じた。 ・本市と名張市はまちづくりの仕組みが大きく違う。鳥取市では、地域のコミュニティの拠点である公民館運営とまちづくりを推進する「まちづくり協議会」の２本立てで推進している。現状は、公民館運営に重きをおいていると思う。名張市は一体化して従来の行政のやり方だけでは対応できない領域や内容のサービスを提供できるとの考え方が広まりつつある中で、地域福祉教育総合支援システムを目指している。本市とは、行政規模や地域面積など地域ごとに抱えている課題や実情が違うが少子高齢化が顕著に現れている現状で、更なる市民との協働を推進する上で、新たなまちづくりの仕組みが必要と考える。 ・行政の仕事は相談業務である。市民の近くに窓口をおくことで安心して相談できるし、「待ち」の姿勢ではなく、常に地域の行事に参加するようにしているというのがいいと思った。名張市は住民投票で７割が合併を反対したことを受けて、まちづくりを住民が考え、自ら行うことを目指し、自立的、自主的まちづくりを推奨している。大きな行政単位ではない。人口８万人ならばこそできることだ。が、それだけではなく、地域単位に様々な取り組みを自分たちで取り組んでいるのがいい。地域住民の自主的な活動とまちの保健室が市民と行政をつなぐ仕掛けが素晴らしいと思った。直接、まちの保健室を訪問し快く対応していただいた。 ・名張市 15 の地域は、中山間地の集落、若い世代の多い新しい住宅地、高齢者密度の高い地域等、それぞれに特徴があり、その取り組みもそれぞれ異なった。鳥取市と名張市は人口規模の違いこそあるが地域を細かく分けて地域それぞれの特徴に適した取り組みを行うことは、大いに参考となる。鳥取市でも安心して暮らせる市とするためには少なくとも市職員が各地に出向いて各地の実態を把握し、それに合った施策を考えることが実現すれば、より魅力的で元気なまちづくりができるのではなかろうか。 ・名張市「まちの保健室」のまちづくりに考えさせられると共に、財政難という逆境を跳ね返し体制を作り上げていった姿にとても感動した。中央集権⇒地域内分権の様な形で、行政と地域が協議しながら小地域に権限と財源を下していく方法は地方自治の理想の形だと感じた。鳥取市の住民も地方自治の原点に返りそのダイナミズムを自治に展開すべきと感じた。足下の一歩をモデル地域等で試行すべきと感じる。 ・全国の自治体でさまざまな取り組みが行われているが、総合相談窓口をつくって、生活困難者に知らせて、そういう人たちが来

	るようにという直接的なものでは、うまくいってないことが提起されてきている。名張市のこの取り組みは、全世代包括型、小学校を基盤とする地域密着型、専門家による他業種連携など、役所の総合力が問われる全世代包括型地域福祉のモデルとして注目されている。本市においても大いに参考にして取り組むべきものだと思った。 ・名張市は地域づくり組織が整備され、充実する中で、地域包括ケアシステムの進化・推進も図られ、生活支援～地域の多様な主体による互助の輪～、共生社会の構築、「まちの保健室」「名張版ネウボラ」「エリアディレクター制度」等も充分に機能できる体制が出来上がってきている。「すべての市民の社会参加がかなう互助共生社会の実現に向けて」コンセプトが完成度の高い住民自治、福祉教育事業として根付こうとしている。何でも行政頼み、縦割り行政の弊害を克服するこの名張市の施策は今後の鳥取市政、住民自治の目指すべき方向性を示すものであると思われる。 ・地域福祉教育総合支援システムについては、本市の自治連合会でも地域ごとに独自にまちづくり協議会が活動しているが、本市は行政の指導が強いのではないだろうか。名張市の地域づくりは地域で自発を促す取り組みであると感じた。また、まちの保健室は今回視察の中で一番興味深い活動だった。実際に名張市民センター内のまちの保健室に社会福祉士や看護師、介護福祉士など有資格者が配置され、地域づくりと一体的に地域福祉を推進していた。小学校単位に設置され身近に気軽に相談できる場所として利用されていた。
滋賀県 近江八幡市	**○安寧のまちづくり基本構想について** ・吉田副市長は「町並みが、人を育てる」と力説。本市の地方創生の考え方は「ひと・まち・しごと」の考え方のもとまちづくりを進めており、人を前面に立てている。考え方に違いがあるようだ。「いつまでも暮らしたい。住んでみたい鳥取市」のテーマは、安寧のまちづくりに通ずる概念と思った。 ・副市長が「行政に元気がないと市政に元気がない。議会に元気がない。主人公は市民である。」と言われたのが印象的だった。民生委員や児童委員のなり手がなくて、半数が選出できなかったことを受け止めて、今、行政からの依頼を減らすようにし、本来の相談業務に専念できるようにする。また研修の在り方も合理的に工夫しているということだった。鳥取でも調査が必要だと思う。 ・市域を小さな地域に分け、各種行政施策を総合的に運用し、地域の健康も防災も景観も産業も振興も総合的に向上させ、調和の取れた居住環境が生まれれば、地元住民が喜ぶ。地元住民が喜べば、これに伴って大都市圏の人々も住みたくなるという近江八幡型のまちづくりの手法は、鳥取市においても参考とするべきであろう。 ・近江八幡市のＣＣＲＣは鼻息が荒い、プライドが高い、負け犬にならないとの意気込みを感じた。わざわざ東大の教授に推進会

	議の座長を依頼し、奇抜なアイデアを取り入れつつ、近江八幡市を関西圏だけでなく関東へ世界へと売り込んでいきたいとの意気込みで進められているところに感心した。鳥取市にもっとリスクを取り込み先進的な取り組みをすべきだと言ってくれている様にも感じた。 ・①まちなかの古民家で暮らす。②静かな水辺で暮らす。③晴耕雨読の暮らし。④レイクサイドの暮らし。⑤新世代アーバンビレッジで暮らす。この特色ある５つの提案をしているのに関心を寄せた。事業はいよいよこれからで、今年度、パートナー事業者を公募・選定して、平成 31 年度から移住者募集を実施し、平成 32 年からの入居開始を目指している。私は日本版ＣＣＲＣに疑問をもっている一人であるが、人口減少時代における本市のまちづくりを考えていくうえで、近江八幡市のチャレンジを注視していきたいと思う。 ・この事業推進の特徴の１つは、ウェブサイトで全世界から要望や情報を募り、これを分析、移住者の包括的な思いを汲み取っていることである。東京大学の都市計画、ＣＣＲＣ専門家大方教授の指導も得て順調な事業推進が図られているようである。この事業の推進については、パートナー事業者を募集して行うこととしていて、都市計画、土木建設、関連法律等多様なスタッフをパートナーとして募っている。日本版ＣＣＲＣの構築を通して、生涯を安心して過ごせる環境づくりをアイデンティティとした着眼は大いに参考としたい。「いつまでも暮らしたい、誰もが暮らしたくなる、自信と誇り・夢と希望に満ちた鳥取市」の実現に参考としたい。 ・安寧のまちづくりについて、本市も移住者対策を打ち立てているが、他都市の事例を参考に積極的に取り組んでいくためのよいアドバイスになった。
奈良県 奈良市	**〇奈良市保健所・教育総合センター（はぐくみセンター）について** ・地下一階から五階までセンター内を説明を受けながら視察完了。駅周辺のため駐車場の確保が問題とのことである。駅周辺でのデメリットは特になし。奈良駅西側周辺の整備、再開発により保健所・教育総合センターを建設。その他、奈良遷都事業により、すぐ近くに素晴らしいコンサートホール 100 年記念館が建設されていた。大型箱ものの建設の感があり、施設管理費が気になる。 ・４階にある保健・環境検査室では、精密機械が多く高額な機材が設置されており、市からの持ち出しが大きいようだ。また、地下にある動物管理施設は、負傷動物の収容、譲渡事業等が行われており、適正飼養及び動物愛護の啓発活動が周知されている。不妊去勢費用も本市並みで、殺処分はほぼゼロである。奈良市の中核市移行後の沿革をみると、組織改革が適宜に行われており、現在の組織体制となっている。本市は県からの移行期間にあり、実践的な訓練期間と思うが、より市民にフィットするような体制にするには、期間が必要と思う。市民が不安を抱かないように万全の対応を望む。 ・動物管理施設はもっと簡単なものを考えていただけに、病気を

	持っているかもしれない動物を車から直接搬入できる設備、避妊手術ができる設備、新しい飼い主にもらわれるための工夫などもされており、今の社会に求められる施設になっていると思った。中央保健センターは一時預かりなどを行うゆったりした遊びスペースがうらやましい。発達に心配のある乳幼児も親も遊びながら話を聞いたり様子をみたりする事ができる施設と思った。 ・奈良市における保健所業務には実務的業務が多く、専門性も高い。鳥取市においては現在、保健所業務の市への移管について議論されているが、業務の事務手続きの引継ぎ議論が先行しており、保健所の在り方、その具体的な業務についての検討はまだまだ不足しているように痛感した。 ・動物管理施設がＢ１階であり搬入搬出の利便性をあげていた。駅近くというのは検疫の点ではもしもの場合の拡散の点で実は危険性も含んでいるのではないかと感じた。 ・説明と質疑のあとに所内を案内していただいたが、相当な施設・設備・業務内容であった。本市もいよいよこれから具現化のときを迎えるが、詳細な検討と準備が必要で大変だというのが感想である。 ・以前に視察した府の施設を譲渡してもらった枚方市、新築の越谷市と比べると保健所としてはかなり高度な施設であるように感じた。また、立地が奈良市駅周辺であることから公共交通機関を利用するには大変便利である。が、逆に駐車所の確保には苦労しているとのことであった。保健所部分は、感染症、セキュリティ、個人保護対策などに相当の配慮があり、来所者にも職員にも行き届いた設計となっている。奈良市保健所の如き設計であれば例え駅周辺と言えども全く不安を感じさせない立地である。周辺住民にも十分説明、理解を得ているようであるし、動物管理においてもその対応は大変よく考えられていると感じた。特に最近は保護した犬、猫はほとんど譲渡できているとのことで、近年殺処分はほとんどないとのことであった。本市の保健所は駅南庁舎に設置することになっているが、奈良市の取り組みは大いに参考とすべきである。 ・動物管理施設直接誘導路で地下に入り、直接動物に触れることなく保護するようになっていた。本市も地下へ一時預かりの場所を設置する予定のようだが、充実した施設になるのか疑問だ。